

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安心安全な教育環境を保護者や地域の方とともに作り、生徒に確かな学力などの社会生活で役立つ能力を育成する学校をめざす。

- 1 自己実現のために、全教育活動を通して「確かな学力」などの社会的実力を育む (目標のあるキャリア教育)
- 2 人権尊重の精神に基づく安心安全な学校生活のなかで「生きる力」を育む (自他を大切にす意識と力の育成)
- 3 保護者や地域との充実した連携と協力を図りながら教育活動を行う (地域社会と協力する「開かれた学校づくり」)

2 中期的目標

1 確かな学力などの社会的実力の育成

(1) わかりやすく魅力のある授業づくりをめざす。

ア 主体的・対話的で深い学びを実現するために、「SN勉強会」を中心として観点別学習状況評価の手法を活用した授業改善に取り組む。

イ 授業観察・授業見学・授業アンケートなどにより、具体的な改善点を確認研究し、授業力の向上を図る。

※授業アンケートの教員平均評定の向上 3.3以上をめざす (H30:3.11→R1:3.13→R2:3.28)

※生徒対象学校教育自己診断アンケート「教え方を工夫した授業」の肯定的評価60%以上をめざす。(H30:47.5%→R1:46.4%→R2:56.4%)

(2) 生徒の多様な進路実現に向けて、組織的な取り組みを行う。

ア 生徒が目標とする進路を実現できるように、関連情報環境を整備し、基礎学力重視の補習、発展的な進学講習などを充実させる。

イ 「体育・芸術創造コース」などキャリアを形成する本校の特色ある教育活動を発展充実させて、社会的な実力の育成を行う。

※生徒対象学校教育自己診断アンケート「進路や生き方について学ぶ機会」の肯定的評価80%以上をめざす。(H30:63.2%→R1:70.6%→R2:75.9%)

2 安心安全な学校生活を通しての生きていく力の育成

(1) 生活指導の充実を図り、生活習慣の確立と規範意識向上、感染症等の防止対策に向けた取組を推進し、個々の生徒への支援体制を整備充実させる。

ア 生活指導を通して、必要なモラルやマナーを身につけることの大切さを意識させることにより、社会生活に必要な力を育成する。

イ SCを活用した養護教諭・教育相談委員会の取組により、相談機能を活発化して、個々の生徒への支援体制を充実させる。

※生徒対象学校教育自己診断アンケート「社会のルールについての学び」の肯定的評価70%以上をめざす。(H30:58.2%→R1:58.1%→R2:68.2%)

(2) 人権尊重の意識を育て、特別活動等への主体的参加を促進することで自己肯定感を養う。

ア 様々な人権問題に関する正しい理解を深めることで人権感覚を養い、自他を尊重する教育を総合的に推進する。

イ 特別活動や部活動などを通して、楽しく充実した学校生活を送ることで自己肯定感を育てる。

※生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価80%以上をめざす。(H30:69.3%→R1:70.8%→R2:79.8%)

3 教職員の働き方改革の推進

(1) 教職員の業務内容に関する合理化を図ることで、働き方に関する改革を進めていく。

※時間外勤務に関わる産業医との面談が必要な教員数を前年度よりも減少させていくことをめざす。(H30:14名→R1:13名→R2:1月時点で9名)

4 保護者・地域と協力した学校づくり

(1) PTA活動を充実させ、地域との交流を部活動、学校行事、貢献活動などを通して充実させる。

ア PTA行事参加、「西高カップ」、地域イベントへの貢献、泉北高等支援学校との授業交流等を発展継続させる。

(2) 取組みをPTA新聞、校長ブログ、学校説明会などを通して広報することで、保護者や地域の本校教育活動への理解を深める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【自己診断全般について】</p> <p>○生徒に関しては全項目で上昇した前年に引き続き、今回も8割以上の項目で肯定的評価が上昇した。保護者に関しても、約7割の項目で肯定的評価が上昇した。前回は長期臨時休業を反映しての肯定値上昇の可能性もあったが、今回は通年による評価なので、コロナ禍の中でも可能な範囲で本校の特色に基づいた教育活動を模索し、実現実施に取り組んだことについて、一定の成果があったと判断している。</p> <p>【生徒の回答から】</p> <p>○生徒の学校生活のあり方の中心的な指標となる「学校の楽しさ」項目で高い肯定値86.0% (前年比1.2p↑)を示している。コロナ禍にもかかわらず、この2年間で約5p上昇したことになるので、本校教育活動の基本的な方向性に誤りはないと考えられる。</p> <p>「部活動の活発さ」項目肯定値89.8% (1.3p↑2年間で10p上昇)、「学校行事の企画性」項目肯定値71.7% (10.3p↑)など、感染防止対策、様々な制限をしながらではあるが、特別活動等を通して生徒に様々なコンピテンシーを身につけさせるという本校教育活動の特色を推進した反映だと考えている。</p> <p>○授業に関しては、前回大幅に上昇した「わかりやすさ」項目でわずかではあるが肯定値が下がっている(1.1p↓)。この点については、油断せずに改善に取り組むたい。「工夫」項目では肯定値59.8% (3.4p↑)なので、ICTの活用が一定進んでいると思われる。それがわかりやすさに反映するレベルまで授業改善に引き続き取り組んでいきたい。</p>	<p>【第1回学校運営協議会(令和3年7月2日)】対面実施 (学校経営計画に関わって)</p> <p>○学校経営計画についての説明はわかった。内容が整理され、刷新されてわかりやすくなったと思う。堺西高校の良さが出るように、この内容の実現に向けてがんばってほしい。</p> <p>○昨年度はコロナ禍のために地域とのつながりが弱くなったのだが、今年もそうなりそうということなので残念だ。地域においてもまず安全安心が優先されるので、祭りやイベントの中止となっている。状況が収まったら、また活発に交流してほしい。</p> <p>○コロナ禍で制約の多いなかでも行事や部活動をなんとか充実させようという影響で遅刻数にも大きな増減が出ていないという点は安心した。</p> <p>○学校現場には慢性的に教員の不足状態があるらしいが、特に情報教育に関してはこれから課題がますます増えると思われる。学校としての対応が大変なところも多いと思うがその点の充実もよろしくお願ひしたい。</p> <p>○携帯電話等に関わる指導に代表されるように、生活指導の面でも生徒の実態に即していかうとしていることがわかる。交通安全などの面でも引き続きしっかりと指導をしていただきたい。</p> <p>【第2回学校運営協議会(令和3年11月5日)】対面実施 (委員による授業見学に関わって)</p> <p>○情報の実習授業なのに、座学と異なることなく生徒がまじめにおとなしく取り組んでいることに感心した。</p> <p>○生徒たちは「スポーツ概論」の発表でもとてもよい発表をしていた記憶がある。今回の授業に関しては、発表者をディスプレイに映したり、スライドシェアも次回の取組につながるかたちにするなどの工夫も検討してほしい。</p>

<p>【保護者の回答から】</p> <p>○「教育方針の理解共感」については平均的肯定値 75.1% (0.6p↑) となり、5ポイント以上上がった昨年に引き続き一定のご理解は得ていると思うが、開かれた学校づくりを推進することで、よりこの点での肯定度があがるような教育活動をしていきたいと考えている。</p> <p>○「保護者の行事などへの参加」の項目については 32.1% (11.7p↓) と大きく肯定値を下げている。昨年度は制限しながらでも可能であった文化祭への保護者参加が、コロナ禍最盛期にあたったために今年度は不可となった。感染症関連の状況が落ち着いたら、ぜひとも挽回を図りたい。</p> <p>【教職員の回答から】</p> <p>○強く改善をめざした「役割分担」(12.3p↑)「広報活動」(12.2↑)などの項目については肯定値が上昇した。一方で、今年度会議回数を増やすなどして改善に取り組んでいる教育相談体制の整備に関する項目が 12.1ポイント下がったという結果に関しては、早急に原因の分析を進めて一層の改善に取り組みたいと考えている。</p>	<p>○中学校でも ICT の活用はかなり進んできていて、生徒たちは一定の技術などを習得した状態で高校に入学することになっていくと思う。その点を高校段階の情報関係、ICT 関係の授業や活動でさらに伸ばしてあげてほしいと思う。</p> <p>○設定は難しいかもしれないが、プレゼンテーションや技術習得でどの程度のレベルを求めているのかが生徒にわかりやすくすることが必要だと思う。すでに行っていると思うが、資料使用に関して、著作権に関して発生するリスクなどについてもしっかりと理解させてほしい。</p> <p>○生徒は基本的に主体的に授業に取り組んでいたと思う。時間があれば、教員からの肯定的なコメントや講評などを加えてもいいのではないかと感じた。</p> <p>○コロナ禍など学校現場は気を遣う大変な状況が続くと思うが、生徒たちのために引き続きよろしくお祈りしたい。</p> <p>【第3回学校運営協議会（令和4年2月18日）】対面実施 〈今年度の取組全般を振り返って〉</p> <p>○指標の部分で全般的に向上がみられるのは学校の努力がうかがえてよかったと思う。</p> <p>○自己診断をみると家庭での学習時間の不足がみられる。考える力をつけるような家庭学習も必要だと思う。また、教科単位ではなく、学年単位の取組を課題の出し方を含めて検討してみることも必要ではないか。</p> <p>○新学習指導要領や観点別学習状況評価の導入で学びのあり方が変わる。各教科での取り組みに期待している。中学校では研修を行うなど工夫を凝らして授業と評価に臨んでいる。ICT の活用についても取組をがんばってほしい。</p> <p>○学校では特色づくりを前面に出して頑張っていることはよくわかる。せつくなので、そのぶん、保護者や地域などへの広報などにもっと力を入れてもよいのではないかと感じる。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力などの社会的実力の育成	(1) 教え方を工夫した授業づくりの推進 ア 本校にふさわしい授業の検討	(1) ア 本校生徒の実態をふまえたうえで、「SN 勉強会」を中心に、引き続き学習内容がわかりやすくなるような授業のあり方を検討する。	ア ・年間2回の授業アンケート平均評定で 3.2 以上 [3.28] ・SN 勉強会の全校規模での取組事業1回以上の開催（研究授業など） [1回]	(1) ア ・年間2回の授業アンケートにおける平均評定は 3.34 であった。目標を達成している。SN 勉強会の取組などをさらに充実させて、本校にふさわしい授業の検討を進めたい。(○)
	イ 具体的な授業改善への取組	イ 効果的な場面での ICT 機器の活用、「アクティブ・ラーニング」の視点に基づく学習活動などの導入を図るなどを行う。そのことを通して、工夫ある教科指導による授業づくりに取り組む。	イ 生徒対象学校教育自己診断「工夫のある授業」の肯定的評価 57%以上 [56.4%]	イ 生徒対象学校教育自己診断「工夫のある授業」の肯定的評価は 59.8% となり、目標を達成した。来年度は1人1台端末など ICT の効果的な活用を促進して、さらなる授業改善を図りたい。(○)
	(2) 進路実現に向けた組織的な取組の充実 ア 進路と生き方について学ぶ機会	(2) ア 難関大学に挑む生徒向けの進学講習、外部講師等による進路説明会の実施や就職のための面接指導など、自己の進路と生き方について考えさせながら、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。	ア 生徒対象学校教育自己診断「進路や生き方について学ぶ機会がある」の肯定的評価 78%以上 [76.9%]	(2) ア 生徒対象学校教育自己診断「進路や生き方について学ぶ機会がある」の肯定的評価は 83.6% となり、コロナ禍中においてもきめ細かい進路指導機会を設けて目標を達成した。引き続き個々に即した進路指導を行いたい。(◎)
	イ 特色ある教育による実力を持った社会的人材の育成	イ 大阪万博開催を意識して、キャリア教育の観点をふまえたパフォーマンス成果発表機会（例「アートスタジアム」）を設けて、コース授業における取組を促進する。	イ 「体育・芸術創造コース」生徒によるパフォーマンス発表機会を年間2回以上設ける。	イ 体育生徒によるパフォーマンスは9月に体育祭での「集団行動」で披露し、2月には連携先大学で健康スポーツ関連研究の発表を34名で行う。芸術生徒は11月に専門家を招いて「アートスタジアム」を外部会場で実施した。(○)
2 安心安全な学校生活	(1) 規範意識の向上と支援体制の整備充実 ア 規範意識などの社会生活に必要な力の育成	(1) ア ・社会生活で必要となるマナーやルールを守るという規範意識を、身だしなみ指導や遅刻指導、交通安全指導などを通して育む。	ア ・生徒対象学校教育自己診断「社会のルールについての学び」の肯定的評価 69%以上 [68.2%] ・年間遅刻数 2000 件未満 [1841 件]	(1) ア ・生徒対象学校教育自己診断「社会のルールについての学び」の肯定的評価は 71.5% となり、目標を達成した。引き続き、規範意識の育成を図っていく。(○) ・年間遅刻数は 1586 件 (1月末) であった。(○)

府立堺西高等学校

<p>活を通しての生きていく力の育成</p>	<p>イ 個々の支援体制の充実</p> <p>(2) 人権問題の理解と自己肯定感の養成</p> <p>ア 人権問題理解による自己尊重教育</p> <p>イ 特別活動等を通しての自己肯定感の育み</p>	<p>・自分の健康のみならず他者の健康も守らねばならないという意識を育み、感染症防止対策に取り組ませる。</p> <p>イ SC を活用した教育相談体制を充実させるとともに、「いじめ」事象などが起こった場合に、個々のケースに迅速に対応できる能動的な支援組織の確立を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア LHR など様々人権に関する課題を取りあげて、差別等で苦しむ人々がいるという事実についての認識を養いつつ、自分と他者を大切に育む。</p> <p>イ 本校の大きな特色である部活動や行事の盛んさ、活発さをいっそう発展充実させることにより、他者とともに課題の達成に至ったよるこびや有用感、自己肯定感を養う。</p>	<p>・健康チェックを欠かさずに行い、感染症等防止対策を促すプリントを相応しいタイミングで5回以上配付する。</p> <p>イ 教職員対象学校教育自己診断「学校の教育相談体制の整備」の肯定的評価 78%以上 [76.9%]</p> <p>ア 各学年で人権問題に関する LHR を年間2回以上実施する。</p> <p>イ 生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価 80%以上 [79.8%]</p>	<p>・健康観察カード使用の周知、回収チェックの徹底をした。校長から保護者への状況に応じた感染防止等協力依頼文書を9回(1月時点)発行し、生徒向けには保健だよりを9回発行した。(○)</p> <p>イ 教職員対象学校教育自己診断「学校の教育相談体制の整備」の肯定的評価は64.8%であり、数値を下げている。今年度は会議の回数を大幅に増やすなどの体制強化を図ったが、コロナ禍による相談の急増に追いつけなかったところがあるので、来年度に向けて実態に即した相談体制の確立を図りたい。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 全校規模で外部会場で実施したものを含めて、1年生5回、2年生4回、3年生6回実施した。(○)</p> <p>イ 生徒対象学校教育自己診断「学校行事への積極的参加」の肯定的評価は昨年度と同じく79.8%であり、目標の達成には至らなかった。学校による行事企画項目では10%以上評価を上げたので、それが生徒自身のさらなる取組意欲伸長に結びつくように改善を図りたい。(△)</p>
<p>3 教職員の働き方改革の推進</p>	<p>(1) 教育活動とのバランスに配慮しながらの校務の合理化による働き方の改革</p>	<p>(1)</p> <p>本校は多様な教育活動をそれぞれ全面的に推進する全人教育を特色としてきた。そのため一人の教員が担う業務も多岐にわたっている。そこで、業務内容を実態に即した生徒の教育に必要な度合いに分けて、整理したうえで、業務量の検討を通しての精選と簡素化、組織体制の強化を進める。その対策を通して、働き方を見直し、労働時間の適正化を産業医と連携して図る。</p>	<p>(1)</p> <p>長時間にわたる時間外勤務に関わって、産業医による面談が必要な教職員の数を年間今年度よりも減少させる。[12名]</p>	<p>(1)</p> <p>産業医による面談人数は10名であった。目標は達成した。しかし、業務内容を生徒の実態と府の教育方針に沿って整理することにより、業務量の精選と簡素化等を図るという点では、感染症拡大防止に関わる業務が予想できないかたちで増える状態が続いてしまっており、引き続いて取り組んでいきたいと考えている。(○)</p>
<p>4 保護者・地域と協力した学校づくり</p>	<p>(1) PTA 活動の充実と地域との交流</p> <p>ア PTA 参加や地域交流の活性化</p> <p>(2) 広報活動による本校教育に対する理解の促進</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・PTA の西高祭等行事への参加、PTA 主催社会見学などの活動充実を通して、保護者と連携した教育活動の一層の促進を図る。</p> <p>・地域と連携した取り組みを計画し、イベント等への参加などの要請があれば、積極的に協力して交流を図ることで、本校の教育に協力していただく。</p> <p>(2)</p> <p>機会あるごとの校長ブログの更新、生徒が活躍する学校説明会の開催、HP 記事による教育状況の連絡、行事やイベントに関するポスターちらしの配付などを通して、保護者や地域の方々などに本校に対する理解を深めていただく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「PTA 活動の活発さ」の肯定的評価 44%以上 [42.8%]</p> <p>・教職員対象学校教育自己診断アンケート「学校の地域等との連携の積極性」の肯定的評価 30%以上 [19.2%]</p> <p>(2)</p> <p>・校長ブログの更新 50 回以上の維持</p> <p>・学校説明会アンケートでの生徒活躍項目の肯定値 50%以上</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・保護者対象学校教育自己診断「PTA 活動の活発さ」の肯定的評価は42.6%にとどまった。コロナ禍の影響により、社会見学や文化的活動がまったくできず、PTA 活動への制限が大きくなってしまった。(一)</p> <p>・教職員対象学校教育自己診断「学校の地域等との連携の積極性」肯定的評価は38.0%になり、目標を大きく上回って達成した。文化庁が公的機関からの万博関連イベントや SDG s 関連のイベントへの参加依頼に応じたり、地域ラジオ放送に関わったりなどしている。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>・校長ブログの更新は55回(2月末)であり、目標を達成した。(○)</p> <p>・学校説明会における生徒の活動に関しても、コロナ禍による接触リスク忌避の観点から、当初のかたちでは実施できずアンケート項目から外している。説明を聞いて本校の印象変化に関しては良かったかという回答が平均して85%ある(変わらないが約15%)ので、一定の評価は得ているものと思われる。(一)</p>